

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 2 月

「神のむすこ娘たち」「神の小羊（II）」「教会と残りの民（VI）」「ガーリック里芋」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「神の小羊 (II)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「教会と残りの民 (VI)」

36

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「ガーリック里芋」

42

レシピ

お話コーナー

「アダム最初の食事 (I)」

44

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023 年 1 月 8 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

必要なのは

天父のご臨在がキリストを取り囲んでいたので、無限の愛なる神が世の祝福のためにお許しになること以外は、何一つキリストの身にふりかかってこなかった。これがキリストの慰めの源であった。…主の…許されることはみな、相共に働いて彼を愛する者たちの益となるのである。(祝福の山 88)

天来の教師イエスは、過失を犯している者のどんな意地悪にも耐えられるおかたである。イエスの愛は冷えず、彼らを導こうとする努力を中止なさらない。イエスは過失を犯している者や反抗する者や背信の者までも受け入れるために幾度も手をひろげて待つておられる。(教育 346)

たとえ、口でなんと言おうと、もし、兄弟に対する無我の愛をもたないならば、神に対する純粹の愛をもっていない。しかし、他人を愛そうと努めることによって、この精神を得ることはできない。必要なのは、心の中にキリストの愛が宿ることである。…神と接触していながら、人間と接触しないということはできない。(キリストの実物教訓 362)

しかし、人間は、…キリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになろう。わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救いください。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることできません。これは、あなたのものです。どうぞきよく保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。どうぞ、わたしを練り、形づくり、清い聖なる雰囲気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください。

この自己否定は、クリスチャン生活の出発において行なうばかりでなくて、天に向かつて前進するごとに、新たにしなければならない…(キリストの実物教訓 139,140)

この経験に調和して、次の命令が与えられている。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリビ 2:12,13)。…あなたは、自分の意志をキリストの意志に従わせているかどうか、また、あなたの先天的および後天的性質が、自分の生活を支配していないかどうかをよく考えなければならない。…偉大な働き人であられる主とあなたの魂との間に自己を差しはさんでいないか…を注意すべきである。…(キリストの実物教訓 141)

人びとは、威厳の保てる宗教を欲する。彼らは、自分たちのさまざまな性質を持ったまま…歩ける広い道を望む。彼らの利己的で…ほめられることを好む気持ちが、救い主を心からしめ出すことになり、キリストのいないところは、いんうつと悲哀の場所となってしまう。キリストが魂の中に住んでくださるならば、それは喜びの泉となる。神を受け入れる者はすべて、神のことばの主題が喜びであることをさとするのである。(キリストの実物教訓 142)

贖罪の働きには、とてうて人間の考え及ばない重要さが含まれている。『『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである』(コリント第一 2:9)。罪人がキリストの力に引きつけられて、高く掲げられた十字架のそばにいき、そこにひれ伏すときに、新しい創造が行なわれるのである。彼は、キリスト・イエスにあって新しく造られた者となる。聖なる神もこれ以上何もお求めにならない。(キリストの実物教訓 143)

聖書の教え

迷子の羊 (Ⅱ)

アメリカ人の著者、エレン・G・ホワイトは、この物語について次のようにコメントしています。「たとえの中羊飼いは一匹の羊、すなわち、数として最少のものをさがしに出かけた。そのように、道に迷った魂がただ一人であつたとしてもキリストは、その人のためにおなくなりになられたはずであつた」(キリストの実物教訓 165)。

罪深い傾向を持つておられませんでした、キリストは罪深い人類と共に住むために来て下さいました。33 年間、このお方は人類のいるところで彼らに手を差し伸べるために、まったくの貧困と自己否定の生涯を送られました。このお方が罪にあずかることはありませんでしたが、罪人を苦しめるあらゆる道徳的な悲慘さをご自身が目撃されました。

キリストが人類を救出するためになされたことについて、ヘブル人の著者は強い言葉を用いています。「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたが、罪は犯されなかった」(ヘブル 4:15 欽定訳)。わたしたちが「イエス様はわたしがどんな経験をしているかをご存じない」と言えるような試練はありません。このお方は、飢えるということがどういうことかご存じです。なぜなら、誘惑の荒野で、聖書はこのお方が空腹を覚えられたと告げているからです。このお方は渇くということがどういうことかご存じです。なぜなら、十字架上でこのお方は「わたしは渇く」と言われたからです。このお方は、裏切られ捨てられるということがどういうことかご存じです。なぜなら、このお方の最大の試練の時に、ご自分の弟子たちがこのお方を捨てたからです。このお方は家族に理解されないことをご存じです。なぜなら、福音書はこのお方の兄弟たちが、イスラエルの待望していたメシヤであると言われたこのお方の主張を受け入れず、ご自分の使命を捨てさせようとしたことを告げているからです。このお方は拒まれるということがどういうことかをご存じです。なぜなら、「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった」と記されているからです(ヨハネ 1:11)。このお方はご自分の子らを観察する遠い神ではありません。そうではなく、わたしたちのうちの一人となり、わたしたちがみな通る同じ道を旅されたのです。これこそ、イエスが苦しむ者に向かって「わたしはあなたが経験していることを知っている」と

言うことがおできになる理由です。

あなたとわたしを愛するゆえに、キリストはすべてを、永遠をも含めてすべてを、かけてくださいました。わたしたちの性質をとられることにより、このお方はすべての人類からみつく誘惑にあわれました。このお方はアダムが墮落したように、墮落することも可能でした。このお方はなお神性を持っておられました—このお方が人になられた時でさえ、完全に神であられました—が、このお方は人類の身代わり、また模範となるために来られたとき、誘惑に打ち勝つために、神性をお用いになることはおできになりませんでした。このお方の神性は、ただ他の人々のために、罪人の救いのためだけに用いられました。

このお方の罪に対する勝利のご生涯は、まったく天父との継続的な交わりと、聖霊の支配に完全に服することにかかっていました。

神に感謝することに、キリストは、羊飼いが迷子の羊を見つけ出し、その羊を連れ帰り、迷い出ることのなかった 99 匹ともう一度一つになるために囲いに戻したという成功で、物語を閉じられました。

たとえば失敗ではなく成功について語っています。羊を見出すにあたり、羊飼いは羊を譴責したり、それを罰したりはせず、その羊が囲いに戻るように導くこともしません。このお方は大きな喜びの中で、羊をご自分の肩にのせ、それを家に連れ帰られるのです。たとえば、羊飼いの幸福は、迷子になった羊そのものの喜びよりもはるかに大きいように見えます。家に帰って、彼は大きな祝宴を設け、自分の友人や隣人を招いて、「わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから」と言われます(ルカ 15:6)。そして、イエスは次のように言われて、たとえの結論をのべられました。「よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない 99 人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう」(7 節)。

親愛なる読者の皆さん、皆さんは、イエスの完全な救いという申し出を受け入れることによって、天の宮廷にどれほど大きな喜びを生じさせるか、考えたことがありますか? このお方は厳粛な訴えをしておられます。「わたしはここにいる! わたしは戸の外に立って、たたいています。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいつて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」(黙示録 3:20, 21 参照)。このお方は、事実、罪人を受け入れ、彼らと、ザアカイやレビ・マタイ、キリストにらい病をいやしていただいたシモン、そして他に大勢の人と食を共になします。

このお方はわたしに自分の心の戸を開いて、ご自分を中に入れ、わたしたちのうちに宿らせるようにと招いておられます。勝利するすべての人に、ご自分の御座

の上に座を提供しておられます。しかし、このお方はまたわたしたちがご自分の恵みなくしては一つの誘惑も一つの罪も打ち勝つことができないので、勝利をも提供しておられます。使徒パウロは次のように宣言しました。「しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである」(コリント第一 15:57)。

エレン・G・ホワイトは次のように記しました。

「悪を行なって絶望におちいつている魂も、勇気を出さなければならない。多分、神は罪をゆるして、神の前に出ることをゆるして下さるであろうなどと考えてはならない。すでに神は、第一歩をふみ出されたのである。あなたが神にそむいたときに、神はあなたを求めてさがしに出られたのである。羊飼いのようなやさしい心で神は、99 匹をあとに残して、さ迷い出た一匹をさがすために荒野へ出ていかれた。彼は、傷ついて、死ぬばかりになっている魂を愛の腕にいだいて、喜び勇んで安全なおりにかかえてこられるのである」(キリストの実物教訓 167)。

「それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。ご自身の御子をさへ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わないことがあろうか。だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。『わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている』と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」(ローマ 8:31-39)。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



2月

わたしたちは御父の愛の律法に従う

主のさとしは確か

「すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、真実と正直とをもってなされた。」(詩篇 111:7, 8)

アダムとエバが創造されたとき、神の律法の知識を持っていた。それは、彼らの心の中に記されていて、その要求を彼らは知っていた。神の律法は人間が造られる前から存在していた。それは、聖なる者たちの状態に従って適用された。天使たちでさえそれによって治められた。墮落後も義の原則は変えられなかった。律法から取りのけられたものは何もなかった。聖なる律法の一つだに改められることはあり得なかった。それは、初めから存在し、永遠にわたって存在し続けるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホバ・コメント] 1 巻 1104)

この律法に従うことは我々の義務であり、わたしたちは世に対してあわれみの最後のメッセージを負わされている。神の律法は、何ら新しいものではない。それは造られた神聖ではなく、知らされた神聖である。それはあわれみと善と愛を表現する原則の規定である。それは墮落した人類に神の品性を与えて、人間の義務全体を明確に述べるものである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホバ・コメント] 1 巻 1104, 1105)

愛の律法が神の統治の基礎であるから、すべての知的存在者の幸福は、その偉大な義の原則に彼らが完全に一致することにかかっている。神は、造られたすべてのものから愛の奉仕、すなわち、神の品性を理解することによってわきおこってくる崇敬を受けることを望まれる。神は、強制された服従をお喜びにならない。そして、神はすべての者に自由意志を与えて、彼らが、自発的に神に奉仕できるようになさった。(人類のあけぼの上巻 3)

「すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、真実と正直とをもってなされた」。人間の権威の上に建てられたものはみな崩れる。しかし、神の不変の言葉の上に基礎をおいたものは、永遠に立つのである。(各時代の大争闘上巻 368)

サタンが憎んで滅ぼそうとした聖なるおきては、罪のない宇宙であがめられる。(人類のあけぼの上巻 403)

主のおきては完全

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」る。(詩篇 19:7)

神が昔の民にお与えになった法律は、世界の文明諸国の法律よりは、はるかに知恵深く、優秀でより人道的であった。諸国の法律は、新しくされていない心のもつ弱点と、激しい感情を表示している。しかし、神のおきては天の刻印を帯びている。(人類のあけぼの下巻 81)

詩篇記者は「主のおきては完全であ」と言っている。エホバの律法がこの簡単な言葉のうちに含んでいる広大さと完全さはなんと驚くべきものであろうか。律法は言葉が非常に簡潔なので、わたしたちはすべての規則をたやすく記憶することができるが、なおかつ神のみ旨全体を表現し、外面的な行動だけでなく、思想や意図、心の願いや感情の範囲まで遠大に及ぶ。人間の法律にはこれができない。外に現われた行動しか扱うことができないのである。人は罪を犯しても他人の目から自分の悪事を隠すことができる。彼は犯罪者、すなわち泥棒、殺人者、姦夫であっても、その罪が発見されないかぎり、法律は彼を有罪にすることはできない。……

神の律法は簡潔でたやすく理解できる。人の子らが、自分の最高の能力を用いてこの律法に従いたいと思うなら、神のご目的とご計画をもっとよく理解するための認識力と力強い思考力を得る。そしてこの向上が現世だけでなく、永遠にわたって続くのである。神の知恵と力についての知識に向上すればするほど、常に前方は限りがないからである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1911 年 1 月 10 日)

「主のおきては完全」であるから、律法にはずれたことはすべて悪でなければならない。(各時代の希望中巻 15)

古代イスラエルが神の特別に祝福された民になるという約束の成就を受ける唯一の条件は服従であった。そして、その律法に対する服従はヘブル人にもたらしただけでなく、同じ大いなる祝福を個人個人に、また諸国民にもたらすのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1911 年 1 月 10 日)

律法そのものは聖であり、 正しくかつ善なり

「このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである。」(ローマ 7:12)

宇宙の最高統治者として、神は生けるすべての者のためばかりでなく、自然界においてもすべてを治めるために律法を定められた。大小を問わず、生命があらうとなかろうと、すべてのものは無視することのできない不変の律法のもとにある。この規則に例外はない。神のみ手が造られたものに、神が忘れておられたものはないからである。……神の創造のみ業の冠である人間に対してだけ、神はその律法の聖なる要求に気づく良心と、この律法を聖であって正しくかつ善なるものとして愛することのできる心をお与えになった。人には迅速で完全な服従が要求されている。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1886 年 4 月 15 日)

この律法のもとでは親は圧迫することを禁じられ、子供は不服従を禁じられている。主はいつくしみと、あわれみとまことに満ちておられる。主のおきてはきよく、正しく良いものである。親も子供もそれに服従すべきである。親と子供の生活を治めるべき律法は無限の愛の心から出ている。そして神のゆたかな恵みは、家庭で神の律法を守らせる親とこの律法に従う子供たちの上にそそがれる。あわれみと正義の結合した影響が感じられなければならない。「いつくしみとまことは共に会い、義と平和とは互に口づけ」する。こういう秩序のもとにある家庭は、義と公平を行なうために、主の道をあゆむ。(7th ベンチスト・ホーム 348)

若い人々に天の原則を見上げさせ、決して低い目標で満足しないようにさせなさい。……ためらいながら歩むのではなく、イエス・キリストの力強さと恵みのうちにしっかりと歩みなさい。このお方には天と地におけるすべての権威が委ねられているのである。イエス・キリストのうちに避難し、このお方を愛し、また仕えるために、このお方と堅い契約に入りなさい。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 5 日)

神の律法は、「聖であって、正しく、かつ善なるものであり、神の完全の写しであるから、その律法に従って形造られる品性も、清いものとなる。キリストは、このような品性の完全な模範である。(各時代の争闘下巻 197)

律法はまことであり正しい

「あなたの義はとこしえに正しく、あなたのおきてはまことです。」(詩篇 119:142)

神は律法を汚れない栄光と美しさと完全な状態でわたしたちの世界に送り、誤ちと対比させられた。人間も悪魔もキリストのご品性の内に、一つの欠点をも見つけることができなかった。しかし、すべての人を照らすことの光の啓示がこの世に来て、暗闇と対比されたが、人々はその光を受けようとしなかった。……悪天使と悪人の間には本来うらみはない。神の律法に対する違反を通して、どちらも悪であり、悪は常に神に敵対して同盟するのである。墮落した人間と墮落した天使は絶望的な親交にはいり込んでいる。……

キリストのご品性の純潔と気高さが人間の心の最も悪い激情をかきたてた。……神の戒めに対するこの方の完全な服従は、肉欲的で正道を踏みはずした人々に対する絶え間ない譴責であった。そのしみのないご品性は、世の道徳的暗闇のただ中に注ぎ込む光であった。……神の子となる者は、背教の軍勢との争闘に入るのを避けることはできない。……贖い主の功績を通して神は、聖であって正しくかつ善なるご自分の律法を守るにあたって、罪深い人間の努力を受け入れられる。キリストと真に結びついている者は、キリストが地上でなされたのと同じ働きをしているのを見いだされるであろう。すなわち、律法をほめたたえ、ほまれあるものになっているのを見いだされるであろう。……真理の擁護者が自分の生涯と品性において真理の力を表わす時、サタンの王国を打つことになる。(ユース・インストラクター-1894年10月11日)

神の品性は、義と真理である。神の律法の性質もそうである。詩篇記者は言っている。「あなたのおきてはまことです。」「あなたのすべての戒めは正しい。」……神の心と意志の表現であるこのような律法は、その制定者と同様に永続的なものでなければならない。(各時代の大争闘下巻 194)

すみやかな服従は祝福をもたらす

「わたしはあなたの戒めを守るのに、すみやかで、ためらいません。」(詩篇 119:60)

神の律法に対する服従は、純潔できよく、汚れのないすべてのものと調和する美しい品性を人の内に発達させる。そのような人の生涯には、キリストの福音のメッセージが明らかとなる。キリストの功績と罪の力からのいやしを受け入れることにより、人は神との正しい関係に入る。その人の虚栄や利己心から清められた生涯は神の愛で満たされる。神の律法に対する日毎の服従は、彼に、神の王国での永遠の命を保証する品性を得させる。

地上の生涯で救い主は、わたしたちが、助けを必要としている魂に善を行うために日々を捧げるなら、聖別された生涯がわたしたちのものになるという模範を示された。悲嘆にくれている人に喜びをもたらし、暗闇にいる人に光をもたらし、滅びゆく人に生命をもたらすのはわたしたちの特権である。「なぜ何もしないで一日中ここに立っていたのか、昼の間に働きなさい。夜が来る。するとだれも働けなくなる」との主のメッセージがわたしたちに与えられている。他の人々の幸福に貢献するために語るすべての言葉、行うすべての行動は、わたしたち自身の幸福に貢献し、わたしたちの生涯をキリストの生涯のようにする。

日毎の義務は快く受け入れ、自発的に行わなければならない。わたしたちの主な義務は、天の特性をあらゆる生活を言葉にも態度にもあらゆることである。研究し実践するために命の言葉がわたしたちに与えられている。わたしたちの行動は、天の王国の律法に完全に一致していなければならない。その時天国はわたしたちの働きを是認することができ、主の奉仕に用いているタラントは、もっと有益さを増すために増える。捧げられた生活は滅びつつある魂をみ言葉の真理へと導きつつ、世の道徳的暗闇のただ中で輝く。……

主は世に対する賜物の中に、わたしたちが受けた光をすべて自分の同胞のための良い働きの中で輝かせることにより、自分の生活の中で、天の市民権のしるしを身に帯びることを、主がどれほど願っておられるかをあらわしてこられた。(原稿 49, 1907 年)

家庭において

「またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」
(申命記 6:9)

古い昔から、イスラエルの信仰ある人たちは教育に関して多くの関心を払ってきた。子供たちがまだ本当に幼いころから、神のいつくしみと偉大さ、とりわけ神の律法とイスラエルの歴史の中にあらわされた神のいつくしみと偉大さを子供たちに教えるように、主は命じられた。両親は、成長しはじめた子供の心にふさわしい歌や祈りや聖書の教訓を通して、神の律法は神のご品性の表われであり、心の中に律法の原則を受け入れるならば、神のみ姿が心と魂に映し出されていくのだということを、子供たちに教えなければならなかった。(家庭の教育 19)

荒野でイスラエル人たちが行進する時に、賛美の中に戒めを具体的に表現し、それによって子供たちが律法を一節ずつ学ぶことができるようにすることが、モーセにとって不可欠であったとすれば、現代、わたしたちの子供に神のみ言葉を教えるということはなんと不可欠なことであろうか。(ビュー・アズ・ヘルド 1904 年 9 月 8 日)

この世と来世における真の幸福は、「主はこう言われる」というみ言葉に服従するかしないかにかかっている。……キリストの生涯を見習わせなさい。サタンは、キリストの高い標準をきびしすぎるものとして打ちこわそうと、あらゆる手段を講ずるであろう。子供がまだ小さいうちに、自分たちは神のかたちに造られているのだということを教えこむことが、あなたがたの仕事である。キリストは、人間はどうあるべきかという生きた模範を示すために、この世においでになった。現代の真理を信じると自認する両親は、神を愛しその律法に従うことを、子供たちに教えねばならない。これこそ親たちにできる最も偉大で最も大切な仕事である。(家庭の教育 69)

大改革運動は家庭で始めなければならない。神の律法に従うことは、勤勉、節約、誠実、正しい対人関係への大きな刺激である。(家庭の教育 531)

気高く円満な人格は、偶然に生じるものではない。それは、青年期の初期になされる品性形成の過程の結果であり、家庭において神の律法が実行されたことによるのである。(家庭の教育 30)

万国民に対する力となるために

「神よ、あなたの大能を奮い起してください。われらのために事をなされた神よ、あなたの力をお示してください。」(詩篇 68:28)

〔神の〕律法はユダヤ国民のためだけではなくた。道德律はユダヤ人と呼ばれる人々が存在する前に与えられ、十誡は万人に及ぶ義務であった。犠牲制度は偉大な犠牲である世の罪を取り除く神の小羊を表わし、罪を犯す者のため、神の正義の要求を満たすために考案された。

主はご自分の民が排他的であることを望まれなかった。キリストに委任された使命者たちはあらゆる国民、国語、民族にこのお方の恵みの福音を宣べ伝えなければならない。偉大な助け主が全世界に語っておられることをわたしたちは知らせなければならない。ユダヤの教会は背教した世に対する神の代表者であると呼ばれ、この奉仕を成就するために、ユダヤ人は地上にあるすべての偶像礼拝をする国民とはまったく異なった国民として存在し続けなければならなかった。彼らは世にあって、自分たち固有の聖なる品性を維持し続けているべきであった。アダムとエバが失敗したこと、すなわち神のすべての戒めに服従し、自分の品性のうちに神の憐れみ、慈しみ、思いやり、また愛をあらわすことによって、彼らは自分自身の靈性を維持することができた。このようにして、すぐれた品性により、彼らは他のあらゆる国民の上に立つことができた。主は純潔で従順な民を通して、ご自分の豊かな祝福をあらわしたいと思っておられるからである。このようにしてみ国を統治している律法の原則が世界中に高められるべきであった。彼ら与えられた憐れみと光と恵みに応じた分だけ、彼らは世の光となるはずであった。彼らが、神を知恵あり、完璧な最高主権者としてこの方に絶えず注意を向けていたなら、神への崇敬が全地にあったのである。……主はわたしたちの神であり、今日ご自分を信じ、ご自分に忠実な民について同じ目的を持っておられる。(手紙 26, 1894 年)

心を喜ばせ眼を明らかにする

「主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする。」(詩篇 19:8)

わたしたちは、神の律法が非常に広範囲であることにに関して、かすかな光しか持っていない。……この最終時代のための、試金石となる真理を信じていると主張する人々の多くは、神の聖なる律法の原則を軽蔑し、これに対する不服従を示していることに対して、神が記録をとっておられないかのようにふるまっている。律法は神のご意志の表現であり、神が人の子らをご自分の息子、娘として受け入れると申し出られるのは、この律法に対する完全な服従を通してである。……神のかたちが人間に回復されるために、神のすべての戒めに対する自発的な服従を通して、無限の犠牲が払われた。わたしたちの救いは非常に偉大なものである。なぜならわたしたちが純潔で完全となり、欠けたところのない者となることができるよう、キリストの義を通して、十二分の備えがなされているからである。……人がキリストを信じる信仰を通して神の律法を守るなら、天の宝はその人の自由になる。(ビュー・アンド・ワールド 1890 年 2 月 4 日)

あなたの悟りの目を開き、自然界における神の律法に麗しい調和をみとめて、あなたの創造主である天と地の最高主権者を畏れ崇敬の念を持ちなさい。信仰の目をもってこのお方を愛してひざまずきつつ、見上げなさい。……イエスを信じるあなたの信仰はあらゆる目的に力を与え、品性を堅固にする。この世におけるあなたの幸福、平安、喜び、成功などはみな、神を本当に信頼する信仰にかかっている。この信仰は神の戒めに対する真の従順を促す。神のうちにあるあなたの知識と信仰はあらゆる悪い行為に対する最も強い抑制となり、あらゆる善を行う動機となる。イエスを、あなたの罪を許す方として、また、あなたの為に用意しに行かれたその住居で、あなたが幸福に暮らすことを望んでおられるお方として、信じなさい。この方はあなたがご自分のおられる所に住み、永遠の生命と栄光の冠を持つことを望んでおられる。(ユース・インストラクター 1887 年 1 月 5 日)

神の戒めを守ると、この世においてすらいかなる報いがある。わたしたちの良心がわたしたちを責めない。わたしたちの心は神に恨みをおかないで、この方と共にあって安らかである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 9 月 22 日)

常にさいわいであるように与えられた定め

「そして主はこのすべての定めを行えと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、また今日のように、主がわれわれを守って命を保たせるためである。」(申命記 6:24)

青少年たちが、世の中に出て行って、金もうけの欲望、享楽や放縦、みえ、ぜいたく、ほうとう、不当なもうけ、詐欺、盗み、破滅といったような罪への誘惑に会おうとき、彼らはそこでどんな教えに直面しなければならないであろうか。

唯心論では、人間は神的性格をもった墮落しない存在で、「自分の心をさばくものは自分の心である」。「人は真の知識をもつとき一切の律法に超越する」。「罪を犯しても罪とはならない」と主張される。なぜなら「すべて有るものは正しい」からであり、また「神は罪を定めない」からであるというのである。どんな下等な人間も天国に行って高い地位を与えられると説かれている。……多くの人々は、こうして、欲望こそ最高の律法であり、放縦こそ自由であり、人は自分自身にだけ責任があると信じるようになる。

衝動が最も激しく、自制と純潔が最も緊急に要求される人生の初めに与えられるこうした教えに対して、どこに徳を守る防護対策があるであろう。……同時にまた無政府主義が、いっさいの律法を、神の律法だけでなく、人間の法律までも廃しようとしている。……

今日の青少年たちは、こうした勢力に直面しなければならないのである。このような動乱のさなかに立つためには、彼らはいまその品性の基礎を置かなければならない。品性を築くための真の基礎と型とは、どんな時代にあってもまたどんな国にあっても、同じである。「心をつくし、……主なるあなたの神を愛せよ。また自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という神の律法—救い主のご品性と一生に現わされているこの大原則こそ、ただ一つの堅固な基礎であり、ただ一つの安全な道しるべである。……

ここに個人の誠実、家庭の純潔、社会の幸福と国家の安定のための唯一の防壁がある。人生の困苦と危険と要求の争いの真ただ中であって、安全で、しかも確実なただ一つの法則は神のみ言葉を行なうことである。(教育 269, 270)

わたしたちは永遠の生命を保証されている

「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、主の戒めを行う者はさいわいである。」(黙示録 22:14 英語訳)

快楽を愛する者の愛情は天の事柄から地上のことへと引き降ろされている。彼は永遠の栄光を、現世における関心事の下に置く。地上の富を得ようとする望みで、天の宝は視界から消えている。未来の人生を求める気持ちはなおざりにされ、この世の関心事が影響力を持つ。……

キリストはもっと気高い世界を見せて下さる。神が建設者また造り主であって、土台のしっかりしているその都における市民であるという特権を差し出される。わたしたちを永遠の門口へと連れて行き、神の律法に調和して生きるすべての者が到達すべきであると宣言されつつ、その都の栄光をわたしたちに示される。エホバの律法に対する服従を通して、人類家族は神の都で一つとなった幸福な家族になることができる。しかし主のみ旨に対する配慮のまったくない者のためには、そこに部屋はない。永遠の生命を得ることのできるすべての者は、自分自身の律法に従おうとする代りに、神の律法をこの世における導き手として受け入れることによってこの生命を得なければならない。……み父と調和して人生を送る人々に對して、キリストはご自分の生命の力を分け与えられる。(原稿 49, 1907 年)

神の金の都にある真珠の門がきらめくちょうつがいを開いて、戒めを守った人々が迎え入れられる時、この人々が嘆き悲しんでいるとあなたは思うだろうか。決してそのようなことはない。彼らはその時喜びにあふれる。彼らは律法の束縛のもとにいたのではなく、神の律法を守っているのであって、自由になっているのである。彼らには生命の木にあずかり、その癒す葉にあずかる特権がある。(レビュー・アンド・ヘアルド 1852 年 6 月 10 日)

天の神は、神の戒めを守る者に天来の祝福を注がれた。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1104)

地上の「わずかなもの」に忠実であった者は、栄光にみちた永遠の世界において「多くのもの」を管理する。(世界総会会報二期 1900 年)

キリストは律法を大いなるものとし、 光栄あるものとされた

「主はおのれの義のために、その教を大いなるものとし、かつ光栄あるものとすることを喜ばれた。」(イザヤ 42:21)

神の政府の律法はそのひとり子の死によって大いなるものとされねばならなかった。キリストは世の罪を負われた。神のみ子の受肉と死の中にのみわたしたちの望みがある。このお方は神性にささえられていたので、苦しみに耐え忍ぶことがおできになった。不忠実や罪というしみが一つもなかったので耐えることがおできになった。キリストは刑罰という正義をこのようにして負うことにより人のために勝利された。律法を高め、名誉あるものとする一方で人に対して永遠の生命を確保された。(ユース・インストラクター 1898 年 8 月 4 日)

すべての魂は、人類家族の偉大な模範であるキリストのみ足の跡に従う義務がある。このお方は「わたしは父の戒めを守った」と仰せになる。パリサイ人はこの方が神の律法の要求を減らそうとしていると考えたが、この方が「わたしが律法や預言者を廃するためきたと思つてはならない。廃するためではなく、成就するためきたのである。よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一角もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。」と仰せになるみ声が、彼らの耳に響いた。

キリストは律法を大いなるものとし、光栄あるものとするために来られた。あなたがたが初めから受けていた古い戒めをあがめるために来られた。であるからわたしたちには律法と預言者が必要である。わたしたちには、新約聖書に導く旧約聖書が必要である。新約聖書は旧約聖書にとって代わるのではなく、犠牲と供え物の全制度とわたしたちが初めから受けているみ言葉に意義を与えつつ、わたしたちに救いの計画をもっとはっきりと明らかにするのである。完全な服従があらゆる魂に命じられており、表わされた神のみ旨に対する服従は、あなたをキリストと一つにする。……このお方について、「見よ、わたしはまいります。書の巻にわたしのために記されています。わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と記されている。(ユース・インストラクター 1894 年 11 月 8 日)

わたしたちの生涯にあらわされるべき愛

「愛は隣りに人に害を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。」
(ローマ 13:10)

どれほど多くの者に愛が欠けていることであろうか。ああ、その愛は多くの人がそれによって汚されている憎しみの心、競争、争い、苦々しい根によって根こそぎにされ得るのである。妬みの感情や憎しみ、嫉妬、悪い憶測を捨て去らない限り、キリストの愛が心に受け入れられ、注がれるというのは不可能である。
.....

多くの者は自分自身を欺いている。その心の内に愛の原則が宿っていないからである。彼らは自分の過ちや欠点に目をつむるが神を欺くことはできない。ここに改革がなければならない。真理のすきの刃がわたしたちの自尊心の中に深いうねをつくり、み霊とイエスの愛がわたしたちの心に植えつけられるために、清められていない性質という草地を掘りおこさなければならない。時はすみやかに過ぎ去っており、あらゆる働きはまもなく審判にかけられて、わたしたちの罪か名前のどちらかが生命の書から消される。.....

純粋な愛はその作用が単純であり、他のあらゆる行動の原則とは別である。愛が世的な動機や利己的な関心と混じりあう時、純潔でなくなる。神はわたしたちが働く量よりもどれほどの愛をもって働くかを考慮される。愛は天の特性であり、生来の心にはおこらない。この天来の植物はキリストが最高位の統治をしておられるところにだけ繁茂する。愛が存在するところには生活の中に力と真理がある。愛は善、善以外のなにものも行わない。愛を持っている者は聖潔への実を結び、最後には永遠の命を帯びる。(ユース・インストラクター 1898 年 1 月 13 日)

古い制度の中で愛が支配する原則でなければならないと命じられた方は、新約聖書の中で、愛がご自分に従う者たちの心を支配する原則でなければならないと命じられたイエスであられた。愛の原則を働かせることが真の清めである。(ユース・インストラクター 1894 年 11 月 8 日)

わたしたちの心に書かれた愛の律法

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。……わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。」(エレミヤ 31:33, 34)

キリスト教が世に果たすよう計画されている働きは、神の律法の価値を下げたり、わずかといえどもその聖なる威厳を減ずるものではなく、思いと心にその律法を書き記すことである。神の律法が信者の魂に、このように植えつけられる時、人はイエスの功績を通して永遠の命に近づいている。……

福音の目的はそれが成就される時完成する。各時代にわたるその働きは、真理を信じることを通して、神に従う者の心を全世界の兄弟に対する愛の精神で一つにすることであり、このようにして地上における神の家族の中に秩序と調和という天の制度を設立する。それによって人々が天上における王家の一員となる価値があるとみなされるためである。神はその英知と憐れみのうちにこの地上で、男女がみ声に従い、ご自分の律法を尊重するのか、それともサタンがしたように反逆するのかを見るために、テストをされる。……

墮落した人類に律法を与える神のご目的は、イエスを通して人がその低い身分から神と一つになるために高められるためであり、最高の道徳上の変化がその人の性質と品性のうちにあらわれるためである。この道徳上の改変が起きなければならない。さもないと人は神の王国における信頼できる臣下とはならない。なぜなら、反乱を起こす者となるからである。……

現世はテストと試練の時である。神のみ使いたちは品性が発達するのを眺めており、道徳上の価値を量っている。人が神の律法に従順であるのか、それとも不従順であるのかというすべてがこれにかかっている。罪人は天の交わりにふさわしい者となるために、キリストの功績を通してこの世で従順な僕に変えていただくのだろうか。(レ・ユー・アンド・ヘルド 1891年7月21日)

わたしたちの心にある神の律法はわたしたち自身の関心を、気高い永遠についての関心事の下におくようにさせる。(教会への証 3巻 397)

わたしたちは心を尽して主を愛すべき

「イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』」(マタイ 22:37)

自分の心に注ぎ込まれた神の愛を持っている人はエホバの内に存在し、キリストがこの世であらわされた純潔と愛を反映する。心に神の愛を持っている人は、神の律法に対して恨みを抱くのではなく、その戒めすべてにすすんで従うので、これがキリスト教を構成する。神を何にもまして愛している人は、創造と贖いによって神に属している自分の同胞に愛をあらわす。愛は律法を完成する。だからその戒めに服従するのは神の子すべてにとって義務である。……

完全に聖なるものである神の律法は品性の唯一真の基準である。愛は服従の中にあらわされ、完全な愛はあらゆる恐れを追い払う。神を愛する者はその額に神の印を受け、神のみ業を行う。キリスト教信仰を公言するすべての者が、神を愛するというのが、実際に何を意味するのかを知ると良いのだが。……神は高くあげられた方であり、その栄光のすそが神殿に満ちているお方であることを知って、神の限りない神聖をいくらかでも認識するとよいのだが。彼らが自分の周囲にいる人々の品性と生活に力強い影響力を持ち、イエス・キリストの力を通して他の人々を改変しつつ、多くの人々の中でパン種のように働くが良いのだが。力の源である方と結びついて、彼らが自分の生き生きとした感化力を決して失うことなく、力強くその感化力を増していくと良いのだが。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 26 日)

神に対する愛があらゆる行動と言葉そして思想の生きた原則、基礎とならなければならない。わたしたちがキリストの力強さのうちにそのような献身を続けようとするなら、日毎に神との聖なるつながりを保ち続ける。……神の律法の原則が心のうちに宿り、行動を支配する。そして純潔と聖潔を求め、世の精神や模範を避けて、周囲のすべての人々に益をもたらそうとすることが自分にとって自然なことになる。栄光にみちたみ使いたちが自分に委ねられた愛の奉仕を実行するのと同じようになる。(ビュー・アンド・ワールド 1888 年 10 月 23 日)

わたしたちは自分を愛するように 隣り人を愛する

「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ 22:39)

神の律法は、神を最高に愛し、自分を愛するように隣り人を愛するようにと要求する。この愛を実行しなければ、信仰の最も気高い告白も単なる見せかけである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1911年1月10日)

神を礼拝する者は利己心という根の繊維を一本といえども大事にすることはできないことがわかる。神に対する義務を行いつつ、自分の同胞を圧迫することはできないのである。律法の二番目の原則は第一番目と同様「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」である。「そのとおり行いなさい。そうすればいのちが得られる。」これは、真のクリスチャンであるどの人も女性も子供も、そこからそれてはならないイエス・キリストのみ言葉である。品性を神のかたちに型どって作るのは神の戒めの原則に対する服従である。……

苦しんでいる隣り人を救済しないままにしておくのは神の律法に反する。……神を愛する人は同胞を愛するだけでなく、神が造られた被造物に優しい思いやりをもって注意を払う。神のみ霊が人の内に住まわれる時、み霊は苦しみを作り出すよりは取り除くようその人を導く。……わたしたちはあらゆる場合の苦しみを心にとめ、神の代理者として、自分の能力の最大限度にまで助けを必要とする人を救援するよう努めなければならない。わたしたちは神の同労者でなければならない。自分の親戚や友人また気に入った人々に対して愛情を示しながらも、優しい同情を必要としている人々や、親切と愛を必要としている人々に親切であったり思いやりをあらわすのに失敗する人がいる。熱心な心で、わたしの隣り人とは誰のことであろうかと問おうではないか。わたしたちの隣り人とは単に隣人や特別の友人ではなく、またただ自分の教会に属している人々やわたしたちが隣り人と考える人のことではない。わたしたちの隣り人とは全人類家族である。わたしたちはすべての人に善を行い、特に信仰の家族である人々に善を行うべきである。世に神の律法を行うというのが何を意味するのかを示さなければならない。わたしたちは神を最高に愛し、自分を愛するように隣り人を愛さなければならない。(原稿 33 [日付不詳])

神の戒めを愛する幾千もの人に示された恵み

「わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。」(出エジプト 20:6)

シナイ山上でキリストによって語られた十の神聖な規則は、神の品性の啓示であって、神が人間の全遺産を管轄しておられるという事実を世に知らせた。人間に提示され得る最も大きな愛を表した十の規則から成る律法は、約束のうちに魂に語りかける天からの神の声である。これを行えばあなたはサタンの主権と支配に屈することはないという約束である。一見否定的に思われるかもしれないが、その律法に否定的な部分はない。それは、行って生きよ、ということに尽きる。……主はその被造物の周りに保護の壁である彼の聖なる戒めをお与えになった。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] Ⅱ 卷 1105)

神はあなたに対するご自分の大いなる愛と恵みを表すために、ご自分のなすことのできるすべてをして下さったのである。この方は「そのひとり子を賜わったほどにこの世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。だから神の愛を確信して安らぎなさい。……わたしたちが初めにこのお方を愛したのではなく、神がわたしたちを初めに愛して下さったからである。「わたしたちがまだ罪人であったときに」キリストはわたしたちの贖いのために完全で豊かな備えをするために、死なれたのである。自分の不服従によってわたしたちは神の不興と有罪の宣告に価する者となってはしまったが、神は、わたしたちが自分自身の有限な力で敵の勢力につかまれてしまうままに捨ておかれなかった。天使がわたしたちのためにわたしたちの戦いをしてくれる。だから、天使と協力することにより、わたしたちは悪の勢力に打ち勝つことができる。……信仰によって神に近づくとき、このお方はわたしたちをご自分の家族の養子とし、ご自分の息子、娘とするために、わたしたちに近づいてこられる。(手紙 98b1896 年)

神への奉仕に忠実な者に対しては……単に三、四代に及ぶのではなく、……千代にまであわれみが約束されている。(人類のあけぼの上巻 357)

神の慈しみ深いあわれみは計りしれないので、キリストの愛を感謝する者は真に聖なる者へと新たにされ、生ける頭キリストに屈服させられる。彼らはいとし子として神に従う者となる。(ユース・インストラクター 1898 年 1 月 6 日)

わたしたちは金よりもまさって 神の律法を愛する

「それゆえ、わたしは金よりも、純金よりもまさってあなたの戒めを愛します。」(詩篇 119:127)

この危難の時にわたしたちは神の真理に対する深い愛を減らし、以前よりもその律法への熱い忠誠心を減ずるのであろうか。キリストが権威と栄光のうちに再臨されるに先立って、宣言されたまさにその状態が存在する。広くゆきわたっている不信心が真の信仰と敬神の念を麻痺させ、破壊する傾向すらある。しかしこれはクリスチャンの高潔さという金が、偽善と墮落という不純物に対比して最も明るく輝くまさにその時である。今こそキリストに選ばれた者が、このお方の奉仕に対する献身を示す時、すなわちこのお方に従うすべての者にとって、広く行きわたっている悪の風潮に逆らって堅く立つことにより、主に対する最も気高い証になる時である。

神の戒めを無視することに続く結果、すなわち不正直、盗み、不道德、大酒飲み、殺人という結果を見る時、わたしたちは詩篇記者と共に、「わたしは金よりも、純金よりもまさってあなたの戒めを愛します。」「これらを守れば、大いなる報いがある」と言う準備ができる。神の律法を捨てる時、家庭にも社会にも最大の悲惨が結果として生ずる。よりよい事柄についての唯一の希望は、エホバの教訓を忠実に固守していることを見られることである。不信心なフランスはかつて神の権威に反抗しようと試みた。その時どのような恐ろしい光景が後に続いたことか。人々は神の律法を奴隷のくびきとして捨て去り、自分たちの自慢した自由の中でこれ以上ない暴君の支配のもとに身を置いたのである。無政府状態と流血がその恐ろしい日々を支配した。秩序と政府の基礎を確実に蝕む方法は、神の律法をなくすことだということが、そのとき世界に証明された。……

キリストは律法の権威を維持するために死なねばならなかったのであるから、さらに違反することがわずかといえども許されていると感じる代りに、わたしたちの上に置かれた神のご要求の正当さとその律法の聖なる性質を、今までにないほどわたしたちは認識しなければならない。従順な者はまもなく神の戒めすべてに対する遵守にともなう祝福された結果を見るであろう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年12月15日)

キリストは律法を成就するために来られた

「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。」(マタイ 5:17)

神は諸国民のための、価をつけられないほどの宝である真理の保管者としてイスラエルを選び、世と天使たちと墮落したことのない世界の前に、彼らがあらわすべきであった品性の基準として、ご自分の律法を彼らに与えられた。……不従順と不実を通して、神が選ばれた民は、その律法に従うことによって発達させようと、神が計画しておられたその品性に、実際には反逆する精神を発達させた。彼らは真理から神の上書きを取りはずして、その上に自分自身の形と上書きをつけた。……神の律法は表面上の形式の細かいこと一たとえば、食べる前に頻繁に手を洗い、また、なべや器をあらうこと一などによって埋もれてしまった。什一は庭にある香草にいたるまで要求された。このようなささいな事だけを表面に出す人々に対してキリストは「……それもしなければならぬが、これも見のがしてはならない」と仰せになった。……

あらゆる混乱をまねく騒音のような声のただ中では、人の心に靈感を受けた唇で語りかけ、一人一人にとって本当に大切な試金石となる真理を宣布するために天から直接来られる教師が必要であった。……

神が送られた教師として、キリストの働きは、神の政府の律法についての真の重要性を説明することであった。……真理を神ご自身の律法の枠にはめ直すことによって、キリストはその真理を本来の天来の輝きの中に置かれた。……この方は、神の教訓をすべての真理の源である神が承認された朽ちない真理、永遠に忠誠を尽くすべき真理としておいて下さった。……

キリストは律法の正当性を、単にこの世の住民に証明するためだけに来られたのではなく、ご自分の生涯によって、神の律法の不変性を永遠にうちたてるために来られた。……[神は] 魂の守りをご自分の保護に委ねる者を、決してそのままにしておかれない。イエスに対する彼らの愛のゆえに彼らを愛して、最後まで愛し通される。(原稿 125, 1901 年)

わたしたちはほかのなにものをも 神としてはならない

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」(出エジプト 20:3)

十誡中の「……しなければならない」、「……してはならない」は、十の約束である。もしわたしたちが宇宙を支配している律法に服従するなら、これらの約束がわたしたちに保証される。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 1105)

神の指で二枚の石の板に彫り刻まれた聖なる律法の中にない道徳上の教訓が、聖書のどの個所にでも課せられていることはない。シナイ山で写しがモーセに与えられた。初めの四条は心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして主なるわたしたちの神に仕えるという義務を人に命じている。これは全人格を含んでおり、非常に熱烈で真剣なので、人は自分の思いと愛情の中に、神に張り合うなにも宿すことはできない。そしてその働きには天の署名がある。神の栄光のためには、他のことはすべて第二番目となる。天父が第一であり、喜びと繁栄であって、わたしたちの生涯の光と充足、永遠に続くわたしたちの副業として、とこしえに大切にしなければならない。(手紙 15, 1895 年)

人々に主なる神、この方だけを礼拝し、この方に仕えさせなさい。利己的な自尊心を高く掲げたり、神としてこれに仕えさせてはならない。金銭を神とさせてはならない。もし肉欲にふけることがもっと気高い精神力の支配のもとにおかれなければ、さもない情欲がその人を支配してしまう。心を夢中にさせ、過度の考えや賞賛の原因となるものは何であつても主よりもそれを神として選んでいるのである。(原稿 126, 1901 年)

永遠のかたで自存し、創造されたおかたでなく、自らすべてのものの根源であつて維持者であられる主だけが、最高の尊敬と礼拝をお受けになる資格がある。人間は、主以外のなにものをも第一に愛して奉仕することを禁じられている。神に対するわたしたちの愛を減少させたり、神にささげるべき奉仕をさまたげたりするようなものを心にいだくときに、わたしたちはそれを自分の神としているのである。(人類のあけぼの上巻 356)

わたしたちは刻んだ像に仕えてはならない

「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。」(出エジプト 20:4, 5)

わたしたちの創造主はわたしたちの最高の献身を、また第一位の忠誠を要求される。神に対するわたしたちの愛を減じ、この方に当然なすべき奉仕を妨げる傾向のあるものは何であっても、それによって偶像となる。ある者にとっては土地や家屋、商品は偶像である。神への奉仕が第二義的に考えられている一方で事業は熱心にまた精力的に行なう。家族の礼拝は無視され、個人的な祈りが忘れられる。多くの人は自分の同業者と公正に取り引きしていると主張し、そうすることで自分たちの義務全体から免じられていると感じているように思える。しかし十戒の後半の六条を守るだけでは十分ではない。わたしたちは全心全霊をこめてわたしたちの主なる神を愛さなければならない。あらゆる教訓に対して服従しないことは何であっても……神の律法の要求を満足させることはできない。

繁栄によって心が非常にかたくなり、神を忘れ、同胞の欠乏を忘れている人々がたくさんいる。クリスチャンであると告白する者が、宝石やレース、高価な衣服を身につけることにより自らをあがめているが、その一方では主にある貧しい人々が生活の糧を求めて苦しんでいるのである。救い主の血を通しての贖いを主張する男女が、他の魂を救うためにと委ねられた財産を浪費し、自分自身に名誉をもたらす時にだけ喜んで差し出しながら、宗教のためには捧げ物をいやいや惜しそうに出すのである。これが偶像礼拝者である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年1月26日)

思いを神から引き離すものは何であっても一種の偶像であるとみなされる。それが今日の教会にほとんど力がない理由である。(原稿 2, 1893 年)

第二条は、像や類似した形のものによって真の神を礼拝することを禁じている。……人の心は主の無限の完全さから離れるときに、創造主よりも被造物のほうへひかれるのである。(人類のあけぼの上巻 356)

神は心を探られる方である。このお方は真の心からの奉仕と偶像とを区別される。(原稿 126, 1901 年)

わたしたちは主の名をみだりに唱えてはならない

「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。」(出エジプト 20:7)

「天をさして誓うな。そこは神の御座であるから。また地をさして誓うな。そこは神の足台であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王の都』であるから。また、自分の頭をさして誓うな。あなたは髪の一すじさえ、白くも黒くもすることができない」からであると、この戒めの理由が説明されている。すべては神から出ている。わたしたちが持っているもので、受けなかったものはない。いや、そればかりでなくわたしたちが持っているもので、キリストの血で買いとられたものでないものはない。(祝福の山 81, 82)

激しく怒ったことばを決して口にしてはならない。なぜなら神の御目や天使たちの目には、そのようなことばは一種ののろいであるから。(アドベンチスト・ホーム 510, 502)

この戒めは、偽証や日常ののしりの言葉を禁じているばかりでなく、そのおそれるべき意味も考えないで、神のみ名を軽々しく、あるいは不注意に使うことを禁じている。日常の会話において、神について無思慮に発言することや、ささいなことを神に訴えることや、神のみ名を、幾度も無思慮にくりかえすことなどは、神のみ栄えを汚すことになる。「そのみ名は聖にして、おそれおおい」。神の尊いご品性についての観念が心に印象づけられるように、だれもが、神の尊厳と純潔と神聖さを瞑想すべきである。そして、彼の清いみ名は、うやうやしく厳粛に言わなければならない。(人類のあけぼの上巻 357)

わたしたちが高め礼拝するべき方は人ではない。わたしたちが礼拝と崇敬を当然なすべき方は神、唯一真の生きた神である。聖書の教えによると、牧師を「尊師」と呼ぶのは神を辱めることになる。有限な者はだれも自分自身の名にこの名をつける権利はなく、他の人間の名にもつける権利はない。……「そのみ名は聖にしておそれおおい。」わたしたちがこの言葉をふさわしくない状況で使う時、神を辱める。……み父とみ子だけが高められねばならない。(ユース・インストラクター 1898 年 7 月 7 日)

わたしたちは安息日を聖なる日として 守らなければならない

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」(出エジプト 20:8)

神は「七日目はあなたの神、主の安息である」と仰せになった。神はこの日を神聖なものとされ、休息の日として祝福し聖別された。……神がどなたであるかを述べているのは、十誡全体の中で唯一この戒めだけである。この戒めは神を他のあらゆる神とはっきり区別している。天と地を造られた神、木々や花々を造り、人間を創造された神のことを述べている。あなたが子供たちの前に常に置いておく神、草花を指さして、この方がこれらを造られたこと、また七日目にすべてのわざを終えて休まれたことを、子供たちに語って聞かせなければならない唯一の神がこのお方である。……七日目は神が与えて下さった記念の日である。(原稿 20, 1894 年)

安息日は、神を天地の創造者としてさし示すことによって、真の神とすべての偽りの神とを区別している。七日目を守る者はだれでも、その行為によって、彼らが主の礼拝者であることを表示するのである。このように、安息日は、この地上において神に仕える者があるかぎり、神に対する人間の忠誠のしるしである。

…

神は、人間に、働くために六日間をお与えになり、彼ら自身の働きがその六日の働き日になされるように要求される。病人や苦しんでいる者はいつでも世話しなければならないので、必要とあわれみの行為は安息日にもゆるされるが、不必要な働きは厳格にこれを避けなければならない。……この戒めには、わたしたちの門のうちにいるすべてのものが含まれている。家の中の同居人は、この清い時間の間、世俗的な用事をやめるのである。この清い日には、みんなが一つになって、心からの奉仕によって、神をあがめねばならない。(人類のあけぼの上巻 358, 359)

天と地がつづくかぎり、安息日は、創造主の力のしるしとしてつづくのである。そしてエデンがふたたびこの地上に栄えるときに、神の聖なる休日は、天下のすべての者によってあがめられるのである。安息日ごとに、輝く新天地の住民は「わが前に来て礼拝する」と主は言われる。(各時代の希望上巻 363)

両親を敬う者に約束された永遠の命

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」(出エジプト 20:12)

真にキリストに従いたいと願う者は、心の内にこのお方に住んでいただき、王位に就いていただかねばならない。彼らは自分の家庭生活でキリストの精神と品性をあらわし、接する人々に好意と親切を示さなければならない。真理を知っていると公言しつつ、自分にとって義務である愛情や尊敬を両親に表現せず、父親と母親にほとんど愛を示さないで、両親の願いに従って敬意を表わしたり、その心配を取り除こうとしない子供たちがたくさんいる。クリスチャンであると告白する多くの者が「あなたの父と母を敬え」という聖句が何を意味しているかを知らないで、その結果「あなたの神、主が賜わる地であなたが長く住むためである」という意味がほとんど分からないのである。……心を探られる方は、両親に対するあなたの態度がどのようなものであるかを知っておられる。この方は天にある聖所の金の量りで道徳上の品性を量っておられるからである。ああ、あなたの両親を軽視したことを告白し、無関心であったことを告白し、神の聖なる戒めをあなどったことを告白しなさい。(ユース・インストラクター 1893 年 6 月 22 日)

親は、ほかのだれも受けることのできない愛情と尊敬を受ける資格がある。神は、お与えになった子供たちの責任を親に負わせられた。そして、子供たちが幼いころは、親が子供たちに対して、神の立場に立つことを神ご自身が定められた。親の正当な権威を拒む者は、神の権威を拒んでいる。第五条は、子供たちが親を尊敬し、親に従順に従うことを要求しているだけでなく、親を愛し、いたわり、重荷を軽くし、その評判をまもり、老齢の彼らを助け、慰めることを要求している。(人類のあけぼの上巻 359)

第五条の戒めは子供たち自身の生命と両親の生命が与えられているかぎり、子供たちに義務づけられている。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

わたしたちは殺してはならない

「あなたは殺してはならない。」(出エジプト 20:13)

命を縮めるすべての不正行為、憎しみと復讐の精神、また、他を傷つける行為を行わせたり、他が傷つくことを望んだりさせる悪感情を心にいだくこと(なぜなら、すべて兄弟を憎む者は人殺しだからである)、利己的精神をいだいて、貧者や苦しむ者を顧みないこと、健康を害するすべての放縦、また、不必要な消耗、過労に陥ることは、程度の差こそあっても、すべて第六条の違反である。(人類のあけぼの上巻 360)

ある人々は幸せを見出すためだと考えて、身体上のまた道徳上の義務を投げうち、魂と体を両方とも失う。他の人々は不自然な食欲にふけることで幸せを求め、健康と生命よりも嗜好を喜ばせるほうを望ましいと考える。多くの人が快楽的な情欲によって縛られ、肉欲を満足させるために体力、知力、道徳力を犠牲にする。彼らは早死へと向かっており、審判の時には自殺と宣告されるのである。(ユース・インストラクター-1872年4月)

憎悪と復讐の精神はサタンから出、この精神がサタンに神のみ子を殺害させたのである。だれでも悪意や冷酷な心を抱く者は、これと同じ精神を抱いているのであって、その実は死に至らせるものである。種の中に草木がすでに包まれているように、復讐心の中に悪の行為が包まれている。(祝福の山 70)

神の律法は心にわきおこる嫉妬、うらやみ、憎しみ、深い恨み、仕返し、肉欲、また外面上の行動にはあらわれない心にわきあがる欲望について記している。なぜならこれは意志がないわけではなく機会がないだけだからである。そしてこれらの罪深い感情は、神が「すべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」その日に清算されるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1911年1月10日)

キリストはこの方を信じる者にとって義であり、清めであり、贖いであられる。……このお方はわたしたちの前に、神の律法への聖なる服従の完全な模範を示された。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年2月4日)

わたしたちは純潔にならなければならない

「あなたは姦淫してはならない。」(出エジプト 20:14)

この戒めは、不純な行為だけでなく、好色的な思いや欲望、あるいは、そうしたものを刺激する行為を禁止している。外にあらわれた生活だけでなく、ひそかな意図や心の感情においても、純潔が要求される。キリストは神の律法について深遠な義務をお教えになり、邪悪な思いや目つきは、不法な行為と全く同様に罪であると言われた。(人類のあけぼの上巻 360)

邪悪な思いを愛してこれを心に抱くとき、それはどんなにひそかな思いであっても、罪が依然として心を支配していることを示すものだと、イエスは言われた。魂はまだ、苦い胆汁があり、不義のなわ目がからみついている。みだらな場面を思っで楽しむ者、汚れた思いをいただき、色情をもって眺めたりしている者は、それがついには、あからさまな罪となって現われ、はずかしめと心をかき裂く嘆きを味わって、自分の心の隅にひそめていた悪の正体をみることになるであろう。人が嘆かわしい罪に陥る時のその誘惑が、そこで明らかにされた悪を作り出すのではない。それはただ、心の中にひめ隠されていたものを発達させて、明らかにするに過ぎないのである。それはその心に思うようにその人となりもまたそのようなのである。というのは「命の泉」は心から流れ出るからである。(祝福の山 74, 75)

キリストが宿っている心は、キリストの愛に十分に満ち足りているので、自己に同情や関心を引こうとあせることがない。また魂を神にささげているために、人間の知恵の及ばないことを神の知恵がなしとげてくださる。(祝福の山 81)

生命のある限り、断固とした目的をもって、愛情と情欲とを守らなければならない。われわれが神に寄り頼み、いのちがキリストとともに隠されているのであれば、一瞬でも安全ではあり得ないのである。(国と指導者上巻 58)

わたしたちがイエスに近づけば近づいて生きるほど、このお方の純潔で聖なる品性にあずかる者となり、ますます罪が不快なものとなり、キリストの純潔と輝きが高められ喜ばしいものとなる。(教会への証 5 巻 141)

わたしたちは盗んではならない

「あなたは盗んではならない。」(出エジプト 20:15)

この禁止には、公私の罪が含まれている。第八条は、人間をさらったり、奴隷売買をしたりすることを有罪とし、征服のための戦争を禁じている。それは窃盗と強盗を有罪としている。それは日常生活のどんな小さなことがらにも厳密な正直さを要求している。それは商売における不正を禁じ、正当な借金や賃金の支払いを要求している。それは、他人の無知、弱点、不幸につけこんで私腹をこやす行為は、すべて天の書に詐欺として記録されることを宣言している。(人類のあけぼの上巻 360)

第八条は魂をバリエードで守って、人をその中に囲い、有害な侵略をさせないためである。すなわち、利得を求める利己主義や欲望が隣人の権利を侵害させないためである。この戒めはもっともらしい口実で言いつくろい、広く認められているとしても、あらゆる種類の不正直、不正、欺瞞を禁じている。(手紙 15, 1895 年)

「あなたは盗んではならない」という戒めは神の指によって二枚の石の板に書かれたのである。だが愛情をひそかに盗むということがなんと多く行われ、また許されていることであろう。欺瞞的な求愛が続けられ、内密の交際が維持され、ついには経験がなくこれらの事態がどこへ発展していくのか分かっていない人の愛情が、ある程度親から離れて、こうした行動を取っていることにより彼女の愛には価しないことが明らかな男に与えられる。聖書はあらゆる種類の不誠実を有罪と宣告する。(クリスチャン教育の基礎 102)

人の心をもてあそぶことはきよい神の御目には大きな罪である。(7ドベンスト・ホーム 53)

わたしたちが同僚とささいな不正やもっと大胆な詐欺行為をもって取り引きするとき、わたしたちは神とも同じようにするのである。不正直な道を改めようとしない人は自分の主義を実行し、ついに自分の魂を欺き、天国と永遠の命を失う。(7ドベンスト・ホーム 444)

天地が存続するかぎり、神の律法の聖なる原則は……祝福の源となつて、地をうるおす流れを送り出し続けるのである。(祝福の山 62)

わたしたちはうそや偽証をしてはならない

「あなたは隣人について、偽証してはならない。」(出エジプト 20:16)

第九条は、わたしたちの同胞の品性がそれによって影響を受ける可能性のあるあらゆる言葉において、厳密に真実を語るといふ犯すことのできない配慮をわたしたちに要求する。不注意に話す舌は、神と人への愛の法則により、強い良心的な原則によって抑制されるべきである。(手紙 15, 1895 年)

どんなことにおいても、偽りを言うこと、隣人を欺こうとするすべての試みや意図が、ここに含まれている。欺こうとする意図が虚偽となるのである。目つき、手の動き、顔の表情によって、ことばと同じように効果的にうそが語られるかもしれない。わざと誇張されたしゃべり方、まちがった印象あるいは誇張された印象を伝えるように計画された暗示やほのめかし、事実であっても誤解を招くような言い方などはすべて虚偽である。この戒めは、虚偽や悪意のある憶測や中傷、告げ口などによって隣人の評判を傷つける行為をすべて禁じている。事実を故意に隠して、その結果他人に害を及ぼすことは、第九条の違反である。(人類のあけぼの上巻 361)

イエスは真実そのものが話の法則となるべきことをお教えになった。「あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。……このことばは、冒涇に近い無意味なことばやののしりの言葉をすべて非難している。また、一般社会や実業界の常である心にもないお世辞や、真実の回避や、へつらいのことばや、誇張や、商売上のうそなどを非難している。このことはまた、自分を実際以上に見せかけようとしたり、本心を伝えないことばを口にしたりする者は誠実とは言えないことを教えている。……

クリスチャンのすることはすべて、日光のように透明でなければならない。真実は神からのものである。欺瞞はその無数の形のどの一つをとっても、みなサタンからのものである。……わたしたちは、真理なるおかたによってたえず心が導かれないうが、真実を語ることはできない。(祝福の山 84, 85)

わたしたちはむさぼってはならない

「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。」(出エジプト 20:17)

最後の戒めはむさぼりを罪ありとしている。あらゆる利己的な欲望、どの程度の不満も、あらゆる行き過ぎの行為、あらゆる利己的な満足も、人のキリストに似ているところを損ない、神の都の門からその人を閉め出してしまう品性を強め、発達させる働きをする。(手紙 15, 1895 年)

救いの相続人でありながら、利己的であり、むやみと欲しがり、行きすぎた行為をし、他人の損害によって自分が益を受ける行為を示す人々のところへ天使が奉仕するために来る……時、天使たちは悲しみながら引き返す。……未信者のためには、生来むやみと欲しがり、けちな人々の生活に真理が大いなる良い働きをしているのを見ることほど、主に栄光が帰され、真理が高くほまれを受ける方法はない。そのような信仰が、彼らを利己的な、心の狭い、度の過ぎた、金銭を愛する者から、善を行うことを愛し、祝福される必要のある人々を祝福するために自分の財産を用いる機会を探して、悲しんでいるやもめや親のない子を訪問し、世の汚れからは離れている者へと変えるために、その人の品性を形造る感化力を持つのを見ることができればなら、その人々の信仰は本物であるという証拠になるのだが。……主の来臨を待ち望んでいると公言する者は、すべての取り引きにおいて欺くことによって、自分の告白を恥ずかしめるべきではない。そのような実はクリスチャンという木には実らないのである。(教会への証 2 巻 238, 239)

第十条は、あらゆる罪の根絶をはかるもので、罪の行為が生じる根源の利己的欲望を禁じている。神の律法に従って、他人の所有に対してよこしまな欲望をいだかないものは、同胞に対して悪い行為を犯すことはしないであろう。(人類のあけばの上巻 361)

Good Way Series 研究 2-6



教会と残りの民 (VI)

c) 世との結合

教会において「あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつ」(牧師への証 265)とさせる教会と世との結合は、ふるいの原因の一つです。E・G ホワイトは次のように記しています。

あまりにも自ら世とつながっているために、神の知識を失い、信仰から離れつつある人々がいる。…自分たちの渇きを壊れた水ため、すなわち水をためておくことのできないものでいやそうとしてきた人々は、誤り導くメッセージを宣布するようになる。彼らは耳に聞きよいことを語る。…真理を知っているが、その諸原則を自分の心のうちに育ててこなかった多くの人々は、悪のパン種でふくらんでくる。この悪を彼らは認識しない。言葉と行為において彼らは「耳に聞きよいことを語れ、迷わしごとを預言せよ」と言うのである。わたしたちは今、物事を正しい名で呼ばなければならない。もはや不義を義とみなすべきではない。すべての人は真理の旗印を掲げる準備をしよう。わたしたちは大きな特権を享受し、いま有利な立場に立っていたはずの人々の信仰をゆがめてきた世俗的な慣習と関わってはならない。わたしたちは真理と義のために断固とした立場をとるようにとの神の召しに応えるべきである。これ以上、世俗的な要素と結合してはならない」(特別な証シリーズ B 6 番 62-64)。

かつては真理を擁護しながら、そこから向きを世に変えて、真理を自分の足の下に、憎しみとあざけりのうちに踏みにじる種類の人々のゆえに、わたしたちの最大の試練が訪れるであろう。…わたしたちは彼らの精神と感化力を、わたしたちの主人が闇の君に攻撃されたときにお用いになったのと同じ武器、『こう記されている』をもって抵抗しなければならない」(レビュー・アンド・ヘラルド 1910 年 9

月15日)。

本物の改心、これは後の雨の注ぎの前にわたしたちが必要としているものであり、そこには教会の中に持ち込まれてきたあらゆる世俗的な感化力を打ち破ることが含まれています。E・G・ホワイトは次のように記しています。

「主は忠実なしもべを持っておられる。彼らはふるうテストの時に現れてくる。

…

実を結ばない木が地をふさぐものとして切り倒されるとき、偽りの兄弟たちの群衆が真実なものと区別されるとき、そのときに隠されていたものがキリストの旗印の下でホサナの列を組んで現れるようになる。それまで臆病で自分に信頼をおいてこなかった人々が自ら公にキリストとその真理のために宣言するようになる。…みなぎる苦しみが地を行きめぐるとき、箕がエホバのうち場をふるいわけると、神がご自分の民の助けとなられる。…分離は両者に痛みと苦さを生じさせる。これはキリストが、ご自分もたらすと宣言しておられる不一致である。しかし、改心した人々は自分の友人たちがキリストのためにすべてを捨てるよう絶えざる切望を感じる。そうしないかぎり、最終的で永遠な分離が起こることを知っているからである」(教会への証 5 巻 80-83)。

ここに、ふるいがなお変化のために時間があるあいだに始まるというもう一つの証拠があります。分離の過程が進行している間、改心しない人々にはなお改心する機会があるのです。これは後の雨の下、あるいは最終的なテストの下、すなわちリバイバルと改革の働きを始めるには遅すぎるときでは(キリストの実物教訓 389)、不可能です(教会への証 1 巻 619)。

d) 偽りの教えの紹介

「いわゆる偽りの科学は、クリスチャンの原則の基礎を摩耗させている。そしてかつては信仰のうちにいた人々が、聖書の地境から漂い離れて、自らを神から離していながら、なお神の子であると主張している」(伝道 362)。

「サタンは神の残りの民を地におとずれようとしている全般的な破滅に巻き込みたいと望んでいる。キリストの来臨が近づくにつれ、サタンはますます決意を固めて、彼らを打ち倒すための努力は決定的になる。何らかの新しい光、新しい啓示を持っていると主張する男女が起こるが、彼らは古い地境を信じる信仰を不安定にする傾向がある。彼らの教理は神のみ言葉のテストに耐えられない。それ

でいながら、魂は欺かれるのである」(教会への証 5 巻 295)。

「主がわたしに示すことを喜ばれたことによると、新しい光を持っていると主張するような人々が起り、ますます増えてくる。それらは枝葉の問題であり、入り込むためのくさびである。間隔は広がっていき、ついにこれらの見解を受け入れる人々と、第三天使のメッセージを信じる人々との間の破れとなる」(セクレット・メッセージ 3 巻 409)。

「神はご自分の民を興される。もし他の手段で達成できないなら、異端が彼らの間に入り込み、彼らをふるい、麦からもみをわけるのである」(福音宣伝者 299)。

「偽りの教理が持ち込まれることによって、ふるいがおとずれるとき、これらの表面的な読者は、どこにも錨を下ろしておらず、くずれる砂のようである」(牧師への証 112)。

「偽りの教理を擁護する人々とわずかでも結合することに対してわたしたちの民に警告するよう、指示が与えられてきた」(特別な証シリーズ B 17 番 29)

「わたしたちには伝えるべき試金石となるメッセージがある。そしてわたしは、わたしたちの民に『一致せよ、一致せよ』と告げるよう命じられている。しかし、惑わす霊や悪魔の教理に注意を払い、信仰から離れている人々と一致してはならない。かんばしく、やさしく、真実な心をもって、わたしたちは真理から離れて導き出す人々に注意を払わずに、メッセージを宣布するために出て行くのである」(セクレット・メッセージ 3 巻 412)。

e) 健康改革

「改革を求めるすべての義務には、悔い改め、信仰、そして従順が含まれている。それは魂を新しくより高尚な生活へと引き上げることを意味する。こうしてすべての真の改革は第三天使のメッセージの働きの中にその役割がある。特に、節制の改革はわたしたちの注意と指示を要する。…」

もし節制の働きが 30 年前に始まった時のように実施されていたなら、もし、わたしたちのキャンプミーティングで飲食における不摂生の悪、特に飲酒の悪を民の前に提示していたら、もしこれらのことが、キリストがまもなく来られる証拠との関連の中で提示されるなら、民の間にふるいがあることであろう」(教会への証 6 巻 110, 111)。

「もし教会員が神に割り当てられた役割を果たさないなら、健康改革の運動は彼らなしで進むであろう。そして神が彼らの燭台をその場所から取り除けられるのが見られるであろう」(原稿 78, 1900 年)。

f) エキュメニズムへの関わり

預言的な背景の中で、「世と結合することを通して、教会は堕落する」ようになります〔ビュー・アンド・ハルト 1895 年 2 月 26 日。教会員は「世のやり方に従って行動する」ようになります(教会への証 5 巻 210)。彼らは「世俗と結合し、その精神を抱いて」いることが見いだされます(各時代の争闘下巻 378)。「教会の中で」行われるあらゆる忌むべきものは、ある人々を恩恵期間の終わりまで、嘆き悲しませます。

「大いなる純潔を主張しながらも世俗と一致している人々が、常に真理の運動に反対していた人々と合同するように訴えるときに、われわれは彼らを恐れ、ネヘミヤのように断固として回避しなければならない」(国と指導者下巻 260)。

「神のみ言葉は…サタンがもし可能であれば選民をさえ欺こうと望む偽りの不思議をもって働く時に、わたしたちの防壁となるべきである。そのとき、真理のために固く立ってこなかった人々は、偽りを愛し作りだす不信者たちと結合するようになる。これらの不思議が行われるとき、病人がいやされ、他の驚くことがなされるとき、彼らは欺かれる」(セレクテッド・メッセージ 3 巻 407, 408)。

「世俗的な順応によって沈黙させられた、あるいは控えさせられた警告は、信仰の敵からの最も激しい反対の下で伝えられなければならない。そしてその時、表面的で保守的な階級の人々、すなわち感化力が着実に働きの進展を遅らせる人々は、信仰を放棄し、自分たちの敵だと認める人々、すなわち彼らの共感が長く向いてきた人々の側に立つ。これらの背信者たちはそのとき、力を尽くしてかつての兄弟たちを圧迫し、中傷しながら、また彼らに対する憤りをかきたてることによって、彼らに対する最も苦い敵として現れる」(教会への証 5 巻 463)。

「ユダヤ国民が神から離れる国家となったことを救い主がご覧になったように、自称クリスチャン教会もまた世と法王権に結合するのをご覧になる」(ビュー・アンド・ハルト 1901 年 10 月 8 日)

場や森を満たしました。アダムが新しい創造の不思議、おそらく背の高く品のある木や明るく美しい花におどろいて立ちどまると、もっとたくさんの動物が森の広場からあらわれて、そのかたわらで鳥たちは、何が起っているかを見ようとして、低く飛んでいきます。本能によって、彼らはこの背が高く美しい存在、かがやく瞳と王のような風格をもつ人は、「海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治め」る人だとわかります。

だれの心にも恐怖はありません。アダムは自分のかかとの後についてくるトラを恐れていませんし、トラも彼を恐れていません。シカは危害のことなど考えもしないでヒョウと遊んでいます。またアンテロープ、バッファロー、らくだ、ヒトコブラクダ、カンガルーは、完全な平安と調和のうちに一緒に草を食べています。

動物が草を食べているのを見ながら、アダムは空腹になりました。しかし、彼のためには何があるのでしょうか？彼の目は、ぶどうの木にぶらさがっているむらさき色のぶどうの実に向きます。それから真っ赤なベリーやまた木にふさになっているナッツに目が行きます。これらが彼の食物になるのでしょうか？どれをとろうか迷っていると、神様のみ声が彼にこう告げるのが聞こえます。「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のあつる実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう」。

ガーリック里芋

■材料

里芋	10 個
塩	少々
ニンニク	2 片
オリーブオイル	適量

■作り方

1. 里芋とにんにくの皮をむいて輪切りにします。
2. フライパンにオリーブオイルをしいて、にんにくを炒めます。
3. 香りが出たら、里芋を入れて両面をカリッとするまで焼きます。
4. 最後に塩をふって完成です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第17話

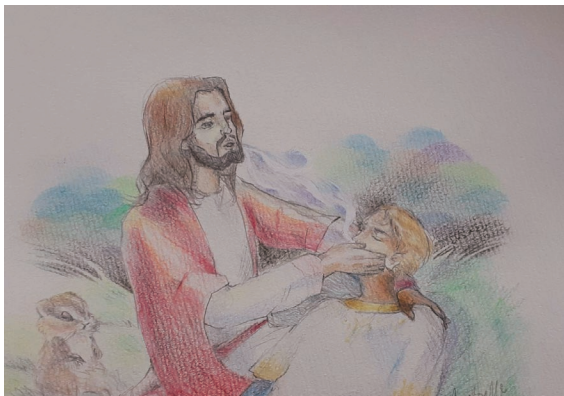
アダム最初の食事(1)

アダムはさっと立ち上がり、あたりをながめて、初めて自分がいる美しい世界を見ました。彼はどのように思ったことでしょうか。そしてなんと言ったことでしょうか。もちろん、そこには彼以外、そして動物以外は、だれも彼が話しかける人はいませんでした。ある動物は、何も言わずに近くを通って行きました。なぜなら、動物はいつも好奇心いっぱいですよ。わたしには目の前に小さな犬がアダムの手をなめていたり、猫が気づいてほしくて、彼の足のそばをすり抜けて行ったり、あるいは馬がなでてほしくて鼻を突きだしたりするのが見えるようです。

四方八方から、他の動物がやってきて、おそらくライオンやゾウ、クマ、ビーバー、大きく太ったパンダ、そして元気で小さなリス—みんなとても人なつこいのですが、目の前にいるすばらしい被造物に目を見張っていました。とにかく、彼らはアダムが自分たちの指導者であり主人であることを認めているようです。そして、彼がやわらかい緑地をふみながら前に進んでいくと、彼らは喜んでとびはねたり、元気よく尾をふったりしながら、ほ

こらしげに嬉しそうに彼の後についていきました。

丘や谷をこえて、木陰の湖やまばゆい小川、湖の砂浜のそばを、大きな行列が道を進んでいくとき、歓迎の喜ばしい叫びが牧



(41 ページに続く)